令和７年度北上市市政座談会

～きたかみまちづくりトーク「ＷＡになって話そう」～in 藤根

報告書

日　時　　令和７年10月27日（月）　午後６時から７時30分まで
場　所　　藤根地区交流センター
参加者　　地域参加者：29名
　　市出席者　：13名　　※他事務局等７名
グループトークテーマ
①：次の世代へ自治会活動をつなげるために、今できることは何だと思いますか？
②：あなたが『参加したい！』と思う地域の集まりとは、どんなものですか？
③：藤根が子育てしやすい地域になるために、どんな空間や地域の見守りがあれば良いと思いますか？
④：歩行者の安全確保、車の無い世帯の支援等など、藤根の交通環境についてみんなでできることを考えましょう
⑤：持続可能な藤根の農業のために、取り組んでみたいことは何ですか？

---

①グループ
・自治会の現状として、同じ顔ぶれになりやすい、女性や子どもの参加が少ない、若い人が市外へ出て行ってしまうので担い手がいない、行政から地域へ回ってくる仕事が多い、子育て世代は忙しくて地域活動に参加できない現実がある、分からないことを聞く、自分が楽しむことが負担軽減につながっている、等の意見が出された。
・デジタルツールの活用等による負担の軽減、地域の中だけで解決しようとせず、広く仲間を集めることの大切さ、若い世代との関わり方の見直しの必要性など、自治会のために今できることが共有された。また、自治会が行政からの仕事をこなすだけの組織になっては、本来の面白さや自発性が失われるという意見もあった。
・同じ地域内でも自治会ごとに抱えている課題に違いもあり、行政と地域がそれぞれできることを少しずつでも解決して前に進むことが大切だという感想があった。

②グループ
・地域の集まりについて、コミュニケーションが少なくなって人のつながりが弱くなっている、個々では好きな集まりに参加しているが地域行事への参加は減っている、コロナ禍以降地域の交流が少なくなったなど、つながりの薄さについての意見が多数あった。また、運動会を子どもから大人まで参加できるような内容にする、新しい行事や訓練などをきっかけに交流の機会をつくるなど、参加を促す工夫について話が出た。
・子どもと地域の関わりについて、地域活動になかなか顔を出してくれない家庭が多く、地域とのつながりができにくくなっている現状や、関わりを持つために参加しやすくなるような取り組みが共有された。
・個々の興味があることや趣味の会など、人と人が緩くつながるきっかけが大事であるという意見があり、共感する声が多くあった。

③グループ

・子どもとの関わり方について、挨拶など自分でできることを始めているという意見がある一方、地域行事への参加が無く、関りが持てない、防犯や個人情報の観点から、地域で関わることが難しくなっているという意見があった。
・子ども食堂には、子どもから高齢者までたくさんの方が来ており、貧困対策としての子ども食堂というより、今はコミュニティづくりの場になっていると感じ、継続していきたいという話があった。また、学童では長期休みの際のお弁当について、個々の事情があるという話があり、子ども食堂が利用できれば良いが、送迎が難しいという悩みが共有された。
・子どもたちがみんなで集まれる地域の居場所として、公民館を解放することで、居場所作りに活かせるのではないかというアイデアも出された。

④グループ

・交通環境について、バスでの移動が知らない高齢者には難しい、生活道路の安全対策を検討してほしい、通学路の草刈りが不十分でクマの心配がある、高齢者の医療機関への交通手段が課題だと感じる、街灯の少ない道路では子どもたちの通学に危険を感じる、などの意見が出された。
・バスの乗り方が分からない人などを対象とした、みんなで一緒にバスに乗る企画を行ったという話があった。交通手段について、近所で助け合うような互助輸送があると良い、福祉観点からの交通補助を考えてほしいなどの話があった。
・市出席者から、街灯に関する補助や乗り合いタクシー、他地区の互助輸送の事例などが紹介された。また、信号機や道路、歩道についての困りごとについて、相談窓口の一本化や手続きを簡略化してほしいという要望があった。

⑤グループ

・農業の現状について、高齢化が進み、作り手がいなくなっている、後継者がいない、集落営農のような組織が必要になる、米などの価格が伸びない一方で資材や燃料費は高騰して収入が足りない、初期投資や機械更新の費用が高く、補助金もハードルが高いなどの課題が挙げられた。公務員やサラリーマンの平均年間所得と同じくらい農家の所得が確保できれば、農業を選択する若い人も増えると思う、という意見も出た。
・これからの農業のために、冬場の作物や複数回収穫できる作物を行政等と一緒に考えていきたい、新規就農者と農業・農家のマッチングを考えたい、ドローンや無人トラクターの導入が進むと負担軽減になるのではないか、などのアイデアも多く出された。
・課題は多いが、市も含めてみんなで集まる機会を設け、アイデアを出し合い、前向きに取り組んでいきたいという感想があった。

グループトークの様子

藤根地区の皆さま

たくさんのご参加ありがとうございました